

静岡県文化施設指定管理業務に関する外部評価委員会の概要及び評価結果(年度評価)

令和2年7月

静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課

1 施設名及び指定管理者名

静岡県コンベンションアーツセンター 公益財団法人静岡県文化財団

2 指定期間

平成29年4月1日～令和4年3月31日(5年間)

3 指定管理業務評価の流れ

- (1) 令和元年度の指定管理業務について、指定管理者が提案内容をどの程度実施したかを明確にするため、指定管理者による自己評価を行った。
- (2) 県では、自己評価と事業実績の内容確認を行うとともに、必要な事項について指定管理者へのヒアリングを行い、県としての評価を行った。
- (3) 自己評価と県評価の内容を客観的に評価して、今後の指定管理業務の改善につなげるため、外部委員からなる評価委員会を開催し、指定管理者及び県へのヒアリングをもとに評価を行った。(開催日 令和2年7月21日)

【外部委員】

氏名	職名
岩崎 邦彦	静岡県立大学 経営情報学部 教授
江成 博行	静岡フィルハーモニー管弦楽団 理事長
木ノ下 智恵子	大阪大学 共創機構社会学共創部門 准教授
木村 玲美	浜松総務部有限公司 代表取締役
坪池 栄子	株式会社文化科学研究所 研究プロデューサー

4 評価結果

(1) 外部委員による評価

ア 総合評価(5段階評価)

令和元年度実績は、評価点「4.4」、「よく実施した」と判断した。

【評価点】

1. 0～1. 4	1. 5～2. 4	2. 5～3. 4	3. 5～4. 4	4. 5～5. 0
実施しなかった	不十分な実施だった	概ね実施した	よく実施した	大変よく実施した

イ 評価に関する意見

- 「上質」で「多彩」のモットーが成果に表れている。子供のうちに少なくとも1回は何らかの「上質」に接する機会を提供することを今後も続けてほしい。
- コロナの影響によって、芸術文化への支出は厳しくなり、より収入率の低下は否めない。そこで、量より質の向上に向けて、プロデューサー制度やスタッフの企画力向上と新たな層へのアプローチに期待する。
- グランシップ「ならでは」の事業の創造、戦略的な新規顧客の獲得及びファンとの絆の強化、内部人材の育成とやりがいのある職場づくり、他の施設の差異化や「強み」の伸長による「らしさ」の創造と発信という点が今後の課題。
- リアルな事業が制限される中、活動を停めずに、オンライン×文化事業の可能性を模索してほしい。
- コロナの影響で、これまでにない文化施設運営の見直しが迫られている。困難に直面している県民の文化活動や県内市町文化施設に対するリーダーシップも問われている。既存の評価に縛られることなく、指定管理者と県が話し合い、この事態に対処してほしい。

(2) 県評価の概要

ア 総評

(公財) 静岡県文化財団は、指定管理業務を適正に実施したものと認められる。

イ 数値目標の達成状況

項 目	R 元計画	R 元実績	達成
(1)「上質」で「多彩」をより身近に			
入館者数	700,000 人	635,805 人	△
グランシップ企画事業入場者数	130,000 人	122,851 人	△
グランシップ企画事業子ども学生鑑賞者数	5,500 人	7,252 人	○
グランシップ企画事業における満足度	90.0%	95.0%	○
貸館利用者の不満足度(スタッフ対応)	1.0%	0.04%	○
(2)「県民との繋がり」と「広域的な協働・交流」			
グランシップ企画事業における県民参加者数	2,039 人	2,642 人	○
コンベンションの開催件数	45 件	47 件	○
友の会個人会員数	7,948 人	11,322 人	○
サポート企業数(協賛、協力、法人会員等)	95 社	134 社	○

サポーター人数	180人	171人	△
インターンシップ受入れ人数	25人	25人	○
(3)「安全・安心・快適」な施設運営と経営の安定化			
施設稼働率	84.0%	78.2%	△
催事開催支援サービス取扱件数	1,800件	2,173件	○
施設管理瑕疵に起因する事故	0件	0件	○

※ 「○」 目標達成、「△」 目標達成率 90%以上、「×」 目標達成率 90%未満

[全 般]

- ・数値目標全体としては、高い達成度であった。平成 30 年度未達成であった「コンベンションの開催件数」が達成となり、目標達成率 90%以上を達成している。
- ・全 14 項目中 4 項目（「入館者数」「企画事業入場者数」「サポーター数」「施設稼働率」）が未達成であるが、「サポーター数」以外は、コロナの影響がなければ目標が達成されたと推測される。「サポーター数」の向上も含め、引き続き目標達成に向けて取り組んでいただきたい。

ウ 実施業務別評価

(ア) グランシップ企画事業

a 上質で多彩な鑑賞事業

- ・入場・参加者数目標 16,150 人に対して、15,799 人であり、目標人数を若干下回ったものの、鑑賞者の満足度は昨年度と同水準の高い水準を維持している。
- ・施設の休館や新型コロナウイルス感染症の影響もあり、様々な制約がある中でも、引き続き多彩な催事の実施に期待したい。

b 誰もが参加できる県民参加事業

- ・多くの入場者が見込まれる催事が新型コロナウイルス感染症の影響で途中中止となるなどの影響で、目標人数は未達成となったが、公演満足度は昨年度と同程度の満足度を維持している。
- ・障害者の文化芸術を文化政策課が所管することになったことや、コロナによりオンラインによる文化芸術情報の発信が盛んになった状況も踏まえ、今まで以上に誰もが、様々な形で参加できる事業実施に期待したい。

c ワークショップから公演まで様々なアウトリーチ事業

- ・入場参加者数目標 29,340 人に対して、35,359 人であり、目標人数を達成することができた。
- ・公演満足度 100%となるような質の高い公演を提供することで、グランシップ企画事業の魅力を伝えることができ、グランシップ公演鑑賞者数の増加にもつながるので、今後も積極的に実施していただきたい。

d 関心・理解・親しみを深める教育普及事業

- ・本公演をより一層楽しむことができる事前レクチャーを行うことにより、関心や理解を深める内容となっている。
- ・若年層が文化芸術に触れる機会を提供することが、グランシップ企画事業への興味関心を高め

ることにも繋がるので、今後も積極的に実施していただきたい。

e 新たなグランシップファン獲得のための取り組み

- ・セット券の公演組み合わせ内容を見直すなど、鑑賞者が鑑賞しやすく、鑑賞者数増につながる取組みを行ったことに加え、県内文化団体・校長会等との連携を深めることにより、「高校生アートラリー」への参加文化ホールの増加など、若い人の文化振興環境づくりに努めた。
- ・今後も県内外問わず幅広い年齢層のグランシップファン獲得のための取組みに期待する。

f 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を踏まえた取り組み

ー文化プログラムに対する取り組みー

- ・グランシップオリジナル文化プログラムに参加する学校数の増加が見られるなど、文化プログラムの推進に努めている。
- ・「こどもサミット」では、事業のねらいを具現化する内容に取り組むなど、企画の工夫も見られるので、引き続き魅力的な事業展開に期待したい。

(イ) 文化支援

a ふじのくに文化情報センターの機能強化

- ・WEBサイト「ふじのくに文化情報」のアクセス数、総合相談窓口の利用件数ともに増加しており、広報強化による相談窓口の定着が見られる。
- ・文化支援の各数値の増加は、県民の文化支援の需要の表れであると思うので、withコロナの時代の文化振興支援など、更なる活動内容の充実に期待したい。

b 自主企画事業を活用した人材育成

- ・登録アーティストを活用したトライアル公演を行うことで、研修生は企画運営を実践でき、登録アーティストはパフォーマンスの場を得ることができ、双方にとって有意義な内容とすることができた。

(ウ) 貸館業務

a 積極的な営業活動

- ・コンベンションの開催件数は47件であり、目標数である45件を達成できた。
- ・顧客の要望への対応力や、たゆまぬ営業努力により、目標達成につなげることができた。

b 大規模催事等の誘致

- ・大規模催事誘致に向けて営業活動に力を入れており、全国大会が平成30年度の2件から3件開催へと増加した。
- ・今後は、静岡市以外の地域との連携を強化することにより、新たな催事の誘致に期待したい。

c 顧客サービスの一層の向上

- ・利用者会議や利用者アンケートの意見をもとに、顧客サービス向上に努めている。
- ・インターネット予約の拡充や手続きの簡素化を図るなど、利用者の利便性の向上を図っている。

d 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を踏まえた取り組み

ー首都圏からのコンベンション誘致ー

- ・昨年度に引き続き、県域プログラムの5事業のうち2事業をグランシップで開催することができた。
- ・新型コロナウイルスにより大規模コンベンション開催そのものや開催方法などが変化したが、主催者のニーズを積極的に捉え、コンベンション誘致に励んでいただきたい。

(エ) 維持管理

a 安心・安全・快適な施設

- ・維持管理業務では、前年度に引き続き、計画的な修繕及び迅速な対応等により、施設管理瑕疵に起因する事故は0件であった。安心・安全に利用できるということは、施設運営にとって大切なことなので、引き続き維持していただきたい。

b ユニバーサルデザインに配慮した施設運営

- ・全ての利用者が安心して利用できる配慮を継続的に実施している。引き続き現状のとおり利用者目線の施設管理対応を期待する。

c 省エネルギーと環境負荷の低減

- ・エネルギー供給元会社と運用方法等の協議を開始するなど、館内スタッフの省エネへの意識の高さがうかがえる。
- ・施設の利用状況が年度により異なるため、単純に比較は難しいが、今後も省エネルギーを意識して運営していただきたい。

(オ) その他運営に関する業務

- ・情報誌で新たに県内の文化プログラムの取り組みや県内の文化施設の紹介を実施するなど、本県の文化の牽引役を担う気概が感じられる。
- ・サポーター人数も目標人数まであと一步のところまで来ているので、目標達成に向け頑張ってくださいとともに、目標達成済みの友の会会員は高齢化が進んでいるようなので、若年層が会員に、そしてリピーターになってくれるような取組みにも期待する。

(カ) 運営体制及び組織

- ・育児や介護を理由に退職した職員の再雇用制度の実施や、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。今年度から再び芸術監督を配置しているので、OJTによる職員の専門性の更なる向上にも期待する。